

第1回京都府言語聴覚士会学術集会 大会長挨拶

吉村 貴子

(一般社団法人京都府言語聴覚士会 会長)



このたび、第1回京都府言語聴覚士会学術集会を2026年8月29日（土）に京都先端科学大学で開催いたします。歴史ある京都の地で言語聴覚士会として開催する学術集会の会長を拝命し、重責を担うとともに大変光栄に感じております。テーマは「京都で実践を語り合う～実践知の共有と言語聴覚士連携をめざして～」です。

京都府言語聴覚士会は京都府における言語聴覚士の職能団体として、平成13年に設立されました。設立当初の会員数は50名弱でしたが、現在の会員数は300名を超し、当初より約6倍と増加しました。

専門性の高い支援を持続可能に提供するためには、日々研鑽し、言語聴覚士自身もよく生きることができるように職業環境を整え、質の高い言語聴覚士の数を増やすことも重要です。

言語聴覚士が対象とする領域は、ことばや聞こえ、高次脳機能、発達、摂食嚥下など幅広く、多岐にわたります。そのため、専門職として質の高い支援を提供するためには、継続的な学びと研鑽を重ね、その成果を対象者や地域社会へ還元していくことが求められます。

また、地域ごとに人口構成や医療・介護資源、支援体制は異なり、言語聴覚士が直面する課題もさまざまです。こうした課題に対して、地域に根ざした活動を通じて解決の道筋を見出し、より良い支援につなげていくことは、本会の重要な役割の一つと考えています。

勉強会や研修会等は、知識や技術を学ぶ場として大きな役割を果たしています。一方、学術集会は学ぶだけの場ではありません。日々の臨床実践や研究活動から得られた知見を発表し、実践を語り合い、参加者同士が議論を重ねることで、新たな知見や課題解決の糸口を見出し、それらを共有する場です。現場での工夫や成果を共有し、互いに学び合うことは、地域全体の言語聴覚療法の質の向上につながります。

日々の実践を語り合い、互いの経験や知見を共有することで、京都の言語聴覚士の知と実践を高める機会となることを願っています。そして、本学術集会を通じて会員相互のつながりが深まり、本会がさらに発展していくことを切に願っております。

多くの皆さまのご参加とご発表を心よりお待ちしております。